

# 福島県現代俳句協会会報

第3号 2020年・夏

編集 福島県現代俳句協会会報編集部 春日 石彦  
福島市八木田神明十三の八 090(6220) 4757

## 令和二年度県現俳総会

### 書面決議に変更

#### コロナ感染拡大防止のため

四月開催予定の令和二年度福島県現代俳句協会の総会はお伝えした通り、新型コロナウイルス流行拡大防止のために延期とし、六月開催で情勢を見ておりました。しかし現在の見通しでは、六月では会員が一堂に会して総会を持つことは不可能と思われまます。したがって、年度が変わってから三か月以内の開催という規約もあり、文書による総会議案の議決をいただくという方法を取らせていただくことにいたします。会員の皆様にはご迷惑をおかけしますが、社会的状況をご理解いただきご了承いただきたいと思います。

今会報に総代会議案を同封いたしました。内容は前もって役員の皆様のご諒解をいただいたものです。コロナウイルス下における今年度の福島県現俳協の主な事業活動は、県内の会員をつなぐこの会報を出来るだけ回数多く発行し、紙面を通じて交流を図ることです。顔を合わせて俳句を楽しむということが当面難しい状況の中、お互いの俳

句に学びながら、自己研鑽を励んでいきたいと思えます。また秋には県中地区で吟行句会を行う予定です。県内の会員から、行事が県北中心のために参加しにくいという声をいただいています。状況が可能であれば、是非開催し、楽しみながら学びあいたいと思えます。

これらの議案には非ご賛同の上、同封のハガキにてご送付いただきますようお願いいたします。また本年度以降、総会と講演会を組み合わせて学習の機会を持ちたいと考えておりましたが、今年度については残念ながら中止といたします。

#### 令和二年度福島県現代俳句協会

##### 総 会 議 案 (詳細別紙)

- 第1号議案 令和1年度事業報告
- 第2号議案 令和1年度収支会計
- 決算書承認について 同監査報告
- 第3号議案 令和2年度事業計画(案)
- 第4号議案 令和2年度会計予算(案)
- 第5号議案 規約の一部改正
- その他 役員補充について

## 現代俳句全国大会

### 会員の皆さんの作品応募を

第五七回現代俳句全国大会は十月二十五日に名古屋市の「名鉄ニューグランドホテル」で行われます。多くの県会員の投句をお待ちしています。3句一組・2千円で何組での応募も可能です。昨年度は県会員の湯田一秋さんが見事大賞に選ばれています。七月三十一日が応募締切です。「現代俳句」誌に応募用紙が添付されます。

当日は日本人画家で唯一模写を許された斎藤吾朗氏の「モナ・リザからのおくりもの」の記念公演が予定されています。当日参加希望の方は県現俳事務局にご相談ください。

また、それに先立ち、現代俳句東北大会が青森市で九月二六日(土)に開催されます。こちらもぜひ事前投句をしましょう。参加希望の方は事務局にご相談ください。ご一緒に青森まで行き、東北の俳句を楽しみましょうか？



# 会員作品7句

## 再来年の約束

田中 雅秀(会津・「海原」)

再来年の約束だなんて雨蛙  
梅雨の橋渡る右足左足  
洋間しかない建売住宅夏の果  
蜘蛛の糸中高一貫女子クラス  
三階からだど赤トンボが見下ろせる  
暗転ののち一面の雪野かな  
ミモザ零れて明日への道示す

## 冷蔵庫

国分 衣麻(須賀川・「芳山」)

古代種の牡丹緋の色火の色に  
牡丹の香嫌いが好きになる月日  
百合の首切つて横顔もち帰る  
衣更また新しきわれとなり  
無明なる核を遠目に浜昼顔  
蛍臭き闇ついてくる一欠けら  
眠れぬ夜実はわたくし冷蔵庫

## 誕生日

佐藤 弘子

(福島・「暖響」 「小熊座」)

カコケセカコケセ枯葉を蹴ってゆく  
よく動く椋鳥のつがひや風邪心地  
誰も死ぬ林檎綿虫が来てゐる  
仕上げたる紙垂(しで)の稜線淑気満つ  
点滴の日々を恃める緋の手套  
声低く宿痾へ打つや年の豆  
風に泳ぐ一刷毛の雪誕生日

## 日銭

長岡 由(いわき)

さくさくと雪のにはひの露の祖父  
飼猫の恋を叱っている口笛  
遠桜にすりよってゆく活断層  
さんびやくの水仙咲かせ見ず逝けり  
初蝶来しち―ちの忌の夕明り  
春疾風にぎりつぶすに素手二本  
小鳥屋の日銭かぞえてうららけし

## 瀧桜

久保 鞆鼓

(福島・「碧生」 「小熊座」)

生死とは吾にはあらぬと瀧桜  
息吸って吐いて夜桜のかたりだす  
大輪の牡丹を切れば風生まれ  
はじけたる言葉チューリップ崩れ  
頬杖というひとときの春の雲  
天も地も和して花の香充滿す  
生きてまた逢へし老樹の桜花

## 厚焼玉子

春日 石疼(福島・「小熊座」)

枇杷男いづこ吾に絡まる藪枯  
曼珠沙華いくたび折れど還れない  
初茜いつしかゐなくなる吾に  
今朝の霜無音無色彩の未来  
原子炉の花芯震へよ吹雪く夜は  
春めくや厚焼玉子の眩しさに  
アメーバにやはらかき足葉月潮

## 県会員作品一句鑑賞

身の内の腫瘍より声「おめでとう」

藤村多加夫

この句を読んだ時のショックに似た驚きを未だに忘れることが出来ない。無季の句と思われるが、「おめでとう」から、新年の句であると解する。わが病いの腫瘍を身内とし、腫瘍の生命をも慈しむ心情に感動を覚えたのだ。新年の挨拶を「おめでとう」と平明に交し合える作者へ涙ぐましいほどの感情が湧く。

感動という詩の原点を忘れた句が横行している中で楔を打ち込む句となろう。私の座右句の一つである。

(江井 芳朗)

地球いま窯変のとき大夕焼 鈴木満喜子

県会報・復刻第二号「会員作品七句」より。

この句は、昨春秋からのオーストラリアの森林火災への思いと推察。必死の消火作業をニュースでしか知る由もないが。火災が収まる事、そして少しでも失うもの以上の良き事があるようにという切なる祈りが「窯変」と「大夕焼」からくみ取れる。自然を守る事は地球を守る事という強いメッセージも…。

今年二月の雨によってこの火災は収束に向かっているという。

(宇川 啓子)

## 私を変えた一句

キャベツ剥けど剥けど流れし子がをらぬ

紺乃 紬

赤ちゃんはキャベツの中から産まれるなどという話がありますが、掲句は、流産した子どもをキャベツの中にさがす母親の、狂気のような悲しみを詠んでいるものでしょう。

八島 ジュン (福島)

南海放送のラジオ番組「夏井いつきの一句一遊」に投句された作品です。この番組は、月曜～金曜朝十時から十分間の放送で、週毎の兼題にリスナーが投句した句をランキングしていくものです。この句は経験から詠まれたものだったのでしょうか。ラジオに耳を傾けながら、一瞬凍りつくような衝撃をおぼえたものでした。

俳句に出会い、日の浅い中でも、十七音が表現する美しい瞬間、言葉によって表される優れた写真のような世界に惹かれていた私でした。

けれど、この句によって示された、目に見えないものがまざまざと眼前に映し出されることへの驚きは、忘れ得ぬものとなっております。

一時も忘れることのない悲しみが一句に託され、そしてその句に触れた人間の心を震わせる。俳句の世界とはこんな世界でもあると実感した瞬間でした。

死んだ弟帰って来ない帰省かな 辻桃子

湯田一秋 (会津若松)

二句詠んでみなさいと言うことになり、二句詠んだ。その内の一句が、「紫陽花や主が逝きて空き家なり」であった。今読むと本当に恥ずかしく句とは言えない代物であったが、景色をしつかり写生できていると思っていると、早速、師の手が入った。「紫陽花や空き家出てゆく郵便夫」。急に句が生き生きとしてきた。紫陽花のしつとりとした色、門前に止めてある赤いバイクの色が浮かび上がってきた。さすがと、師の指導に感服した。

しかし、私には納得のいかないものがあつた。その場に郵便夫はいなかったのである。習い立てなので、師には聞けずに悩んでいた。

相変わらずそれから、私なりに現実を写す句づくりしかできなかった。

何年かたったある時、掲句の作者である辻桃子氏の、『共感』してくださって有り難い。でも、現実の私は三人姉妹の真ん中で、弟はいない。」という文に出会って驚くとともに、小島健氏の「真実と虚の間に芸術上の真実が宿る」と言うことの意味が、少しわかりかけ、以降の私の句づくりが変わった。

自己流で気ままに俳句を楽しんでいた私が、ひよんなことで、俳句のご指導を受けることになった。

私の好きな季語

朴の花 木幡テイ(原町)

葉の上に花影を置き深山朴

大野林火

この句は、来仙中青葉山山中の  
朴の木を耳にした林火が、大会の  
合間にお忍びで見に行った時の即  
吟句だと言われている。

さて、南相馬には、午前に吟行  
し午後には吟行句で句会という形を  
遵守してきた句会がある。現在こ  
の会を率いているのが、林火に直  
接教えを受けた石橋林石で、先の

青葉山朴吟行に一人随行したのが彼であった。そ  
の時、その場でずっと句を掬いあげるのは林火譲  
りか、会の仲間もみななかなかで、毎回構えずに  
素直にが不得意な私は撃沈している。

ところで阿武隈山系が太平洋に張り出した浜通  
りには朴の木は少ないものと思っていた。が、散  
歩コースの城山山麓に中くらしいの木と若木二本を  
見つけた。マイ朴とし、通い続けている。

うす紅の苞(ほう)をはらりと朴舎(ふふ)む

朴咲けり自在に伸びる首の欲し

朴散華山は火の気を失へり

因みに「朴散華」に初めに異を唱えたのは、他  
ならぬ林火である。確かに朴の花は、八枚の大葉  
の上で茶色に縮んで果ててしまう。散華の潔さは  
無い。でも先の句には、朴散華と置きたい。

昨日、朴の枝先の新芽は、小筆いや中筆ぐらい  
になっていて、早くも他を圧していた。

前身会報より抽出

感銘の一句

大河原真青 (郡山)

地球いま窳変のとき大夕焼

鈴木 満喜子

大夕焼に照らされ、自分の立っている地球が真  
つ赤に燃えて窳変を起こしそうだというのだ。ス  
ケールの大きな句である。

今一度雪掻いて出す棺かな

海野 良夫

雪国の葬りの景。前もって雪を掻いておいたの  
だが、出棺の時にはもう積もっていたのだ。しん  
しんと降り積む雪の白さに作者の心情が溢れてい  
る。

惚けますからよろしくと母冬椿

植木 國夫

実に豊饒とした老母である。晩年を子供に託す  
母の優しい眼差しが見えてくる。赤い冬椿が命の  
象徴として眼前に迫ってくる。

一耗のクマムシ雪を眠らしむ

阿部 多み子

クマムシは緩歩動物の総称。一ミリ以下で頭部  
と四節の胴からなる。湿気を好み低温に耐えるク  
マムシが、雪の下に生息して一面の雪原を宥めて  
いると作者は見ているのだ。心惹かれる句。

目覚めるとこの世に腕が冷えてゐた

佐川盟子

「睡眠」とは彼岸と此岸の間に横たわっている  
ものであるか。無意識の世界から覚醒した瞬間、  
「生きている」ことを実感したのだ。腕の冷たさ

は此岸の縁を通って来たからなのかも知れない。

宝船とは難民を乗せてこそ

永瀬 十悟

シリアをはじめアラブの難民は後を絶たない。  
命をかけて地中海を越えても欧州に入国できる保  
証は全くないのだ。作者の痛烈な批判が、宝船の  
帆柱として屹立している。

新入会員紹介

鵜川 伸二(郡山・「海原」)

ただだいて野菊いっぼんゐない子へ  
車ごと令和二年に突っ込みぬ  
冬の夜正当防衛して覚める

何が起きてもおかしくない今生。幸いと言う  
か、私は野山に行くとリフレッシュされる。  
そしてこれ(俳句)だとやっとな決めた。与え  
られた余生どう生きるかを。

編集後記

新型コロナ・ウイルスという予期せぬ厄災に、  
残念ながら総会が中止になりました。今後につい  
ても全く予断を許さない状態です。会員の皆さん  
も不安な日々を過ごしていられっしやるでしょうが、  
何とか乗り切っていきましょう。福島県民は震  
災・原発事故の中でも頑張ってきました。今回の  
未曾有の事態もきつと克服できます。体調管理に  
注意して、お互いに頑張りましょう。(S)